

令和5年度 議会報告会
意見交換概要
第2部テーマ 「子どもを地域で育てる」

令和5年11月7日(火) 開催

項目	要 旨
子どもの居場所づくり	<p>新たに整備された住宅地は、転入された方などが多く、地域コミュニティをつくるのが難しい。幼稚園や保育園に通っていない未就園児の親は、孤立しやすい状況である。その親同士が集まり、意見交換が行える場所は、3か所のみであることから、市として増やすべきではないのか</p>
	<p>国は子どもの居場所づくりに取り組む団体を支援する事業を行っているが、成田市はその事業を活用していない。今後、活用していくべきである</p>
	<p>子どもの居場所づくりに取り組んでいる団体では、運営費に頭を抱えている団体が多い。民間には、行政ではできないことができる強みがある。支援をお願いしたい</p>
	<p>成田市内に子育て支援団体はたくさんあるが、子育て支援団体が一堂に会する会議がなく、横のつながりが無いのが現状。ネットワークを構築することで、各種団体が連携して取りこぼしがないよう子どもたちを支援できる環境づくりが必要。行政主導で子育て支援団体やなかよしひろばの先生などが集える場所をつくってほしい</p>
	<p>任意団体で横のつながりを構築するのは大変であり、行政主導で実施することで公平にできると思う。行政がリーダーシップを取って開催することで、各団体も集まりやすいと思う</p>
	<p>子どもを地域で育てるには、自治会長等が地区内の意見を取りまとめて、反映していくことが一番良いと思う。ただし、区長はなり手不足も深刻であり、役割は大変であることから、市からの補助金を増額するなど、処遇の改善が必要であると思う</p>
	<p>千葉市では、子ども食堂やプレーパークなど子どもの居場所づくりに取り組む団体の会議を年2～3回開催していると聞いたことがあるので、参考にしてほしい</p>
	<p>都内では、TOKYOPLAYや日本冒険遊び場づくり協会等が、プレイカーを公園に向かわせて遊び場を展開しており、子どもと同じ目線で遊ぶことができる大人がいることで、子どもが安心して遊びに行くことができ、遊びを通じて人と人とが繋がっている</p>
地域コミュニティ	<p>子どもたちが元気になれば、親が元気になって、おじいちゃんおばあちゃんも元気になり、地域も元気になると思う。そういう社会をつくってほしい。人と人でコミュニケーションをとる楽しさを子どもたちにも感じてほしい</p>
	<p>個人情報の取扱いが厳しくなったことで、人と人のコミュニケーションが取りづらい世の中になっており、とても寂しく感じる。中高年が子育てしている親に対してアドバイスできる関係の構築に向けて支援してほしい</p>
	<p>子ども会が解散したことなどにより、家、学校以外で子どもたちが接する大人が減ってきている。子どもたちに話しかけると、様々なことを打ち明けてくれるが、親や学校には相談しづらい。親や学校以外の第三者に話す方が気は楽だと言っていた。地域の大人が子どもに対して声掛けをすることが大事だと思うので、議員も行ってほしい</p>

令和5年度 議会報告会
意見交換概要
第2部テーマ 「子どもを地域で育てる」

令和5年11月7日(火) 開催

項目	要 旨
保護者支援	市内には、保護者同士が意見交換できるなかよし広場が3か所しかない。いつでも相談できる人がいて、いつでも行くことができ、自由にやめることができる心の負担が少ない安心な場所が必要であると思う
	ゼロ歳児を育てる親にとって、離乳食は大きな課題。準備をしたり、様々な食材で試したりと工程が多く、負担が大きい。子ども食堂のような形で離乳食食堂(赤ちゃん食堂)をつくれれば、月に1回だけでも離乳食の準備や片付け等から解放されることで、気持ちも楽になると思うし、月齢の近い親同士で意見交換、交流、関係づくりをできる場にもなると思うので、新しい試みとして取り組んでほしい
	生活するために、子どもと遊ぶ時間が無くなるほど働かなくてもよい世の中にしてほしい
貧困世帯への支援	老人ホームを建設するなど高齢者に対する施策が充実されているが、子どもがいる貧困家庭への支援などに重点を置いていただきたい。そのためにも、市全体で予算の使途を検証してほしい
	自転車乗車時のヘルメット着用が義務化されたが、ヘルメットを購入できない世帯も多い。子どもの成長につれて必要のなくなったヘルメットを必要な人に配布する仕組みが必要ではないのか
	子ども食堂で配布する食品は、料理しなくてもすぐに食べられるおにぎりの方がよいという意見が困窮世帯よりあった。プロジェクトチームを立ち上げ、子どもたちの実態を調査すべきである
	子ども食堂では食べ物を配布するだけではなく、マナーを教えるなど、大人と子どもがコミュニケーションを取れる仕組みを構築すべきである
教育	子どものインターネット利用について、メリット、デメリットの指導をしっかり行ってほしい
	英語教育はやめるべき。通常の授業についていけない子どもが、さらに授業についていけなくなり、不登校につながると思う
	新しいプールを整備したのであれば、各学校での水泳授業を中台運動公園のプールに集約してはどうか

令和5年度 議会報告会
意見交換概要
第2部テーマ 「子どもを地域で育てる」

令和5年11月7日(火) 開催

項目	要 旨
不登校支援	毎日出欠席について学校へ連絡しなければならないため、毎日親が子どもに意思を確認しなければならない。そのことが親や子どもを追い詰めているので、対応を改善してほしい
	不登校の子どもにとって、安心できる場所は家だけである。教員や教育委員会の職員が子どもの安否確認のために様子を確認しに来ると、精神が乱れてしまうケースがあるので、不安に感じている親がいる。安否確認する代替手段について検討してほしい
	学校に行けなくなってしまった子どもにとっては、ふれあいる一む21も学校のように感じてしまうので、ハードルが高いとのことである。違った形の施設で不登校児童生徒の居場所をつくってほしい
	ふれあいる一む21は、かなり前から老朽化や手狭であること、運動場がないことについて議会でも取り上げられており、保護者や児童生徒からも意見が寄せられていると思う。旧中郷小や閉校した大栄地区の小学校などを活用してはどうか。こども発達支援センターへの通所を希望しても、定員超過を理由に入所できないことがある。お祭りや新たなまちづくりに予算を投入するのではなく、こういうことに予算を使用してほしい
オーガニック給食	オーガニック給食を推進することで、化学物質の摂取が減り、ミネラルたっぷりの野菜を食べることになる。自閉症や発達障害等に効果があると言われているので、ぜひ推進してほしい
外国籍の保護者、児童への支援	外国人就労者が増加している。親は日本語を話せるが、子どもは話せないケースがあり、地域に馴染むことができず、とてもかわいそうに感じる。行政でケアが必要ではないのか